

ねらい

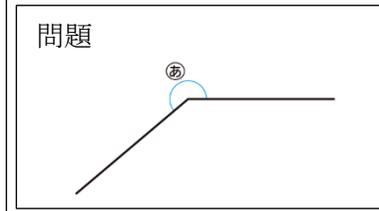
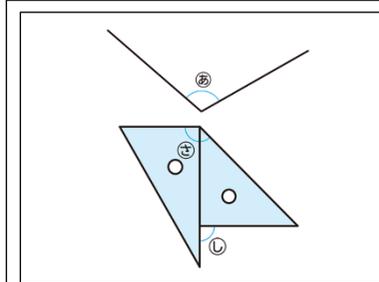
180°より大きい角度を、分度器を用いて測定することができる。

身に付けさせたいこと

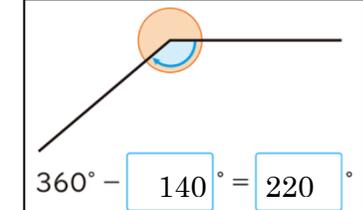
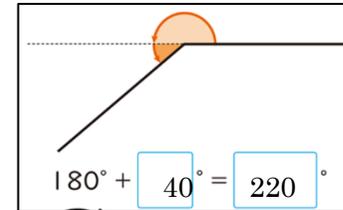
既習事項を使えるように角を変形して答えを導く力。

表れてほしい児童の意識(姿)

- ・既習事項である180°以内の角度を見つけようとしている。
- ・角度を、角を分割して合わせたり、余分な部分を引いたりして求めようとしている。



めあて 180°より大きい角度はどのようにはかればいいのか。



まとめ 180°より大きい角度は、2つに分けてたしたり、360°からよぶんな角度をひいたりしてはかることができる。

授業の流れ

1

学習課題を
把握する 8分

めあて
「180°より大きい角度はどのようにはかればいいのか。」

- 既習事項の振り返りの中で、一直線が180°であること、角度は加減の計算でも求められることを特におさえるようにする。
- 前時まで扱った角と視覚的に比較できるようにすることでこれまでの違いに気付けるようにし、めあてにつなげる。

2

個別に課題を
追究する 7分

○既習事項である180°以内の角度の部分を見つけ、答えを導く。

- 補助線を引けるように、問題を印刷したプリントを用いる。
- 自力では難しい児童には、どの部分なら分度器ではかれるのか問いかけ、分かる角度を書き込ませて、イメージをつかめるようにする。

3

考えを発表し合い、
意見交流をする 25分

180°以内の角度になるよう分割して合わせる方法と、360°から余分な角度を引く方法に大別する。

- 図への書き込みと式をもとに、児童の言葉で説明をさせるようにする。
- 方法をキーワード化し、まとめにつなげられるようにする。

4

学習のまとめをし、
振り返りをする 5分

まとめ
「180°より大きい角度は、2つに分けてたしたり、360°からよぶんな角度をひいたりしてはかることができる。」
○適用問題に取り組む。

- めあてと、意見交流で出たキーワードをもとに、児童とまとめの文を考えるようにする。